

平成21年度 政策評価書（事前の事業評価）

担当部局：防衛政策局防衛計画課
実施時期：平成21年10月

- 事業名**：新戦車の取得
- 政策体系**：防衛装備品整備
- 事業内容**：現有戦車の後継として戦車部隊に装備し、対機甲戦闘・機動打撃及び特殊部隊攻撃対処等に使用する。平成22年度に整備に着手し、平成23年度に16両を取得する。
- 所要経費**：約157億円（平成22年度概算要求額。後年度負担額を含む。）（初度費を除く。）

○評価の内容

1 事業の目的

将来戦においては、充実したC4I、対象戦車を撃破できる火力、高い機動性等が必要になるが、現有戦車ではこれらの必要性を満たすことができず、将来戦に対応できない。このため、将来戦に対応し得る質を有した新戦車を整備する。

2 事業の必要性・適正性

(1) 当該事業の位置付け

① 防衛省の政策体系及び上位の政策における当該事業の役割

本事業は、陸上自衛隊の対機甲戦闘・機動打撃、特殊部隊攻撃対処等に使用する現有戦車の後継装備の整備事業である。

② 防衛省が当該事業を実施する理由

対機甲戦闘・機動打撃及び特殊部隊攻撃対処等は防衛省の役割であり、本事業はこれらに必要な新戦車を整備する事業であることから、防衛省において実施することが適当である。

③ 当該年度から実施する必要性

現有の74式戦車の損耗更新に対応するため、平成22年度より本事業に着手する必要がある。

(2) 当該事業の必要性

① 既存の装備等によらない理由

現有の74式戦車及び90式戦車は、将来戦に必要となる高度なC4I機能を付加しようとしても、内部スペースの関係上、一部限定的な機能付加しかできないこと等から、新たな戦車に必要な機能・性能を得られない。

② 代替手段との比較検討状況

代替手段の候補としては、海外からの導入又は90式戦車の改修が考えられる。このうち、海外からの導入については、米国のM1A2、ドイツのレオパルド2A5、仏国のルクレール等が検討の候補となるが、これら外国の戦車は、戦闘に必要な情報を共有し火力と機動力を指揮統制できる能力、日本の錯雑した国土地形を敏捷に運動する機動力、直接防護力及び間接防護力を総合した防護力を有し、かつ機動的な輸送に適した小型軽量化という、新戦車の装備化において目標としている水準を満足しない。

また、90式戦車の改修についても、主として重量の点で新戦車の目標とする水準を満足せず、また、C4I機能の追加等の改修を実施した場合、全体の経費が上昇するなど、効率的であるとは言えない。

以上から判断した場合、新戦車に替わり得る有効な手段はなく、各種任務に必要な性能を満足する戦車を装備するためには、当該事業を実施する必要がある。

(3) 当該事業における装備品等の数量等の事業内容の必要性・妥当性

74式戦車の損耗分を更新するために、22年度から取得する必要がある。

3 事業実施の効果・時期

(1) 実施効果

① 得ようとする効果

車内及び近傍の戦車と相互に情報を共有できる能力や、基幹連隊指揮統制システムとの接続、対象戦車等を確実に撃破できる火力、戦略機動性及び戦術機動性、総合的な防護力を有する新戦車を開発することにより、有事における対機甲戦闘・機動打撃能力、特殊部隊攻撃対処能力等の飛躍的な向上が期待されるとともに、民生品の活用等による取得単価の抑制等によって、コストの抑制が可能となる。

② 効果の把握の仕方

新戦車の能力については、開発段階における各種試験により確認しているとともに、部隊においてその作戦運用における効果的な運用法の確立により確認する。

③ 得ようとする効果の達成見込みの根拠

新戦車の能力については、技術研究本部で実施した各種試験の結果、必要な性能向上が図られる見込みである。

(2) 実施時期

平成22年度に16両調達し、平成23年度に取得する予定である。

○今後の対応

新戦車の整備は、本格的な侵攻事態や特殊部隊攻撃等の対処にも効果が得られると評価できることから、平成22年度に所要の概算要求を実施する。

○その他の参考情報

74式戦車：昭和49年度から平成元年度まで調達

90式戦車：平成2年度から平成21年度まで調達

新戦車の運用構想・・・・・・・・・・・・・・・・別紙